

令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

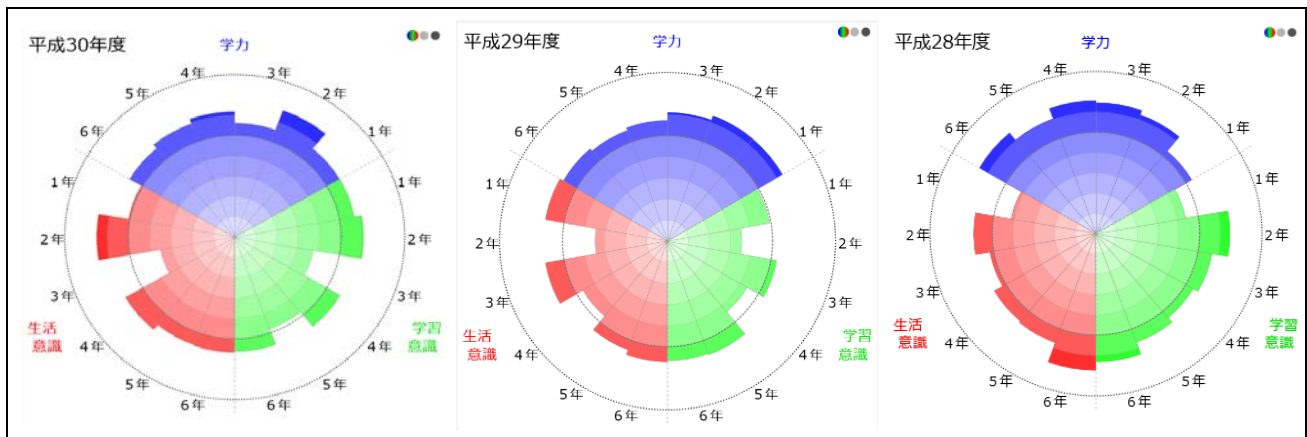
学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「生きる喜びを実感する第二小の子どもたち」	<心身ともにたくましく生きる力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> ○「だれもが安心して豊かに」生活できる学校を目指します。 ～全ては子どものために～（子どもにとってどうかで判断をする） ○子ども一人ひとりを大切にしながら、感動のある学校を目指します。～豊かな学びへ向けて～ ○新学習指導要領の方向性をキャッチして、新しい教育課程（カリキュラム）を作成します。 ○まちとともに歩む学校を目指します。～地域との連携をよりいっそう進める～ ○全教職員による協力指導体制の構築します。～教職員、保護者、地域住民、関係機関を含めたチーム二小の構築～ ○児童を理解し、学校全体での組織的な支援体制の構築を図ります。～特別支援教育の充実～

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組			
<table border="1"> <tr> <td>確かな学力</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさ（感動）を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる教材開発及び教材提示の工夫、指導法や学習形態の改善を進める。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図る。 ・子ども一人ひとりに基礎的・基本的な学力を確実に定着させるために、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> </tr> </table>	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさ（感動）を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる教材開発及び教材提示の工夫、指導法や学習形態の改善を進める。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図る。 ・子ども一人ひとりに基礎的・基本的な学力を確実に定着させるために、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 	担当	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさ（感動）を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる教材開発及び教材提示の工夫、指導法や学習形態の改善を進める。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図る。 ・子ども一人ひとりに基礎的・基本的な学力を確実に定着させるために、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 			
担当				
	研究・研修部			



2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

1 学力の概要と要因の分析

上のグラフは「平成30年度 横浜市学力学習状況調査」における本校の平均値を横浜市の平均値（破線円）と比較したものである。学力については、2・4学年で横浜市を大きく上回り、他の学年でも上回っている。生活および学習への意識については、2・4年生で落ち込みが見られるものの、全体としては、市平均を上回っている状況が見てとれる。学力・意識とも、ここ3年間、ほぼ横浜市の平均を上回り、教育活動の成果が安定して表れていると言える。

一方で、学力に比べ意識調査において、「どのていどわかりますか。」の問いには、各学年により差はあるが、各教科とも市の平均を上回っている。また、「教科の学習が好きですか。」の問いでは、各学年で差があり、各教科とも市の平均より下回るものもあった。これらのデータから、学力の基礎基本の習得において、

算数科の少人数指導や個別取り出し支援などの成果が表れていると言える。しかし、学習意欲の向上を目指していく必要があるため、今後も、授業の中で「言語活動」「問題解決型学習」「体験的な活動」などのさらなる充実を継続していくことが求められる。

また、本校の平均値は横浜市の平均値よりも上回っているとはいえ、学年や教科によっては学力差が大きいものもある。一人ひとりの今の学力を正しく把握し、どの子どもも意欲や興味・関心をもつことができるような授業の工夫やユニバーサルデザインを意識していく必要がある。

2 学校の状況と地域の実態

- (1) 授業研究を中心とした教師側の研究・研修は継続的に行っている。今後、授業を見合うなど教える側が互いに学び合う機会をさらに増やしていきたい。
- (2) 経験の浅い教師も増え、基礎的な指導技術を身に付ける研修の機会を多く設定する必要がある。
- (3) 特別支援委員会を中心に、特別な教育的支援が必要な子どもへの受け止め方や対応の共通理解は進んでいる。学校での指導体制をさらに充実させていきたい。
- (4) 子どもたちの一日の家庭の勉強時間や読書量は市の平均を少し上回っており、全体として家庭学習の環境としては整っていると考えられる。
- (5) 学校・家庭・地域との連携による学習や算数少人数学習、より個に対応した学習を推進する努力をしている。また、教育ボランティアの積極的な授業参加による教育効果が表れている。

3 育成を目指す具体的な資質・能力

【学校教育目標より】

- ① 問題解決にねばり強く努力する態度。
- ② 人を思いやり、進んで活動する態度。
- ③ 地域の一員としての意識や、身近な地域とのかかわる態度。
- ④ 体験活動を重視し、自然を愛し大切にできる態度や心情。

【コミュニケーション能力】

- ① 自分を表現し、互いの思いを大切に伝え合う態度。
- ② 考える力およびコミュニケーションの意欲や技能、豊かな感性。
- ③ 英語活動を通して楽しく、気軽に英語でコミュニケーションができる態度。

4 目標と具体的方針

重点研究目標「まちや人とのかかわりから、生きる喜びを実感する第二小の子どもたち」の育成

(1) 学校組織としての共通の取組

ア 研究・研修の充実

○教材研究の充実

- ・学年研究やブロック研究の時間を確保することで、教材研究を深め、指導方法や内容について学年やブロックで共通理解を図り、新しい実践にも果敢に取り組むようにする。

○研究授業の充実

- ・重点研・初任者研修・年次研修などで授業研究を実施し、授業づくりに研鑽を積む。
- ・初任者や10年次以下の教員を中心としたメンターチームを定期的で開催し、実践的な授業研究などを行う。

○重点研究の充実【総合的な学習の時間】

- ・外部から講師を招聘し、地域と関わる授業研究をともなった実践的な研究を深める。

イ 自分の考えを伝え合う授業の充実

○言語活動の充実

- ・市教育委員会の資料「言語活動サポートブック」などを活用し、全教科で意図的に言語活動を充実させる。
- ・保護者ボランティア「わくわく絵本隊」による読み聞かせなど、読書活動の充実を図る。

○個に応じた指導の充実

- ・一人ひとりの生活態度や学習状況・学習能力について、教師がしっかりと情報収集する。

- ・3～6年生の算数では、少人数指導を実施する。2クラスを3グループに分け、一人ひとりの課題解決を丁寧に支援する。
- ・特別支援教育の充実を図り、指導の共通理解と児童のニーズに合った支援を行う。

ウ 総合的な学習の充実

○地域の材を生かした総合的な学習の充実（今年度の校内重点研究）

- ・地域の材（人・もの・こと）を総合的な学習に活用し、ニ小つ子フェスティバルなどでも発表していく。

エ 学校と家庭・地域との連携

○学校評価の充実

- ・授業参観や学校行事などで寄せられた学校評価を真摯に受け止め、教育活動発展の糧にする。

(2) 学年・教科等としての取組（2～5年生 学習状況調査結果を踏まえて）

<p>1 学年</p> <p>【言語活動】いろいろな教科を通して、自分の考えをしっかりと伝えたり、友達の意見を聞いて質問したりすることを大切にしてい。基礎的な話す・聞く力を身に付けさせ、誰でも発言できる雰囲気づくりを確立する。</p> <p>【国語】文章の理解力をつけるために、読書量を増やすようにする。日々の音読だけでなく、図書の時間にいろいろな物語に触れることで、語彙力をつける。読書に対する興味・関心を引き出し、その力をもとに文章を読み取ったり書いたりする力を伸ばしていく。</p> <p>【算数】数の仕組みや大きさを直接・間接に調べ、数・大きさの概念を理解できるように指導していく。具体物を使って理解しながら、考える力をつけていくようにする。</p>	<p>2 学年</p> <p>【言語活動】学習や生活の中で、話したり聞いたりする活動を多く取り入れることを通して、相手意識をもって伝え合うことを大切に、伝える際には、理由もしっかりと言えるように、指導をしていく。</p> <p>【国語】場面の様子や登場人物の行動を読み取ることはできるが、大事なことを落とさずに聞くことが苦手な児童もいる。そのため、話し手が伝えたいことに興味をもって聞き、話題に沿って、質問をしたり感想を伝えたりできるように指導していく。</p> <p>【算数】数と計算の領域がほぼ定着しているが、不注意な間違いが多いため、答えの検討をつけて問題を考えることや検算を用いて、答えを確かめることで、正確に計算できる力を付けていく。言葉や式で表されていることを理解することが難しかった。数の変化や規則性などを説明するような活動を多く取り入れる。</p>
<p>3 学年</p> <p>【言語活動】話し合い活動を通して自分の思いや考えを相手に伝える。また、紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすることで語彙を増やし、適切な言葉を使うことができるようにする。</p> <p>【国語】学力面では、全体的に市の平均を大きく超えていた。出来事や経験に加え、感動したことや疑問に思ったことの中から書くことを決め、順序に沿って整理して書くことができるように指導していく。説明や紹介をするときは、事柄を具体的に話したり、聞いたりすることができるようにする。</p> <p>【算数】全体的に市の平均を超えることができていた。特に「基礎・基本」の学習に、確実に成果が表れている。しかし、活用の面で課題は残っているので、学習内容を日常生活と関連させた授業を行っていく。</p>	<p>4 学年</p> <p>【言語活動】相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて伝えることができるようにする。そのために、各教科を通して、大事なことを落とさないように聞いたり、相手を意識して伝え合ったりしながら活動を行っていく。</p> <p>【国語】全体的に市の平均を超えることはできていた。国語の学習意識を高めるために、学習活動の目的を明らかにして、子どもたちが自分の思いや願いをもって学習を進めながら、自分の考えを相手に分かりやすく表現できるような授業を行っていく。</p> <p>【算数】全体的に市の平均を超えることはできていた。算数の学習意識を高めるために、授業展開を工夫し、子どもたちが既習の内容を根拠に自分の考えをもち、伝え合えるようにする。また、技能の確実な定着を図るために、基礎的な問題繰り返し取り組む。</p>
<p>5 学年</p> <p>【言語活動】自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えをよく聞き、共感したりその根拠も考えたりできる話し合い活動を目指してきた。人前で考えを話すことに対して、臆することが少なくなり、相手へ明確に伝えるために図や絵を用いて説明することができてきた。今年度も説得力を増す工夫を様々な話の場で取り入れていきたい。</p> <p>【国語】全体的に市の平均を超えている。しかし、「司会の役割を理解し、話し合いを進めることができる。」「目的や必要に応じて文章を読み、要約することができる。」が弱かった。これらの力の育成に視点を当てて指導をしていく。</p> <p>【算数】全体的に市の平均を上回っており、特に「数学的な考え方」に伸びが見られた。しかし、「概数の表し方」の力が他と比べて低かった。公式やきまりなど、「なぜそうなるのか」を考える意識がもてることが定着に繋がる。少人数での学習を活用し丁寧に指導をしていく。</p>	<p>6 学年</p> <p>【言語活動】相手意識をもって内容や話し方を考え、筋道を立てて話すことができるようにする。さらに、より分かりやすく簡潔に伝える工夫（資料活用・話し方の工夫など）を様々な学習活動で取り入れていく。</p> <p>【国語】全体的に市の平均を上回っている。特に、「基礎・基本」が身に付いている。反面、「話すこと・聞くこと」についてはやや課題が見られており、これはこの学年の課題である。このことから、「基礎・基本」を日常生活に生かし、働かせるような学習活動を大切に、「活用」の力を高めていきたい。</p> <p>【算数】基本的な知識、理解が身に付いているが、内容によって個人差が見られ、習得が難しくなっている児童もいる。また、「多面的・多角的な見方」についてはやや課題が見られる。基礎・基本の確実な習得とともに、知識を活用して「多面的・多角的な見方」を深めることができるような学習活動を大切に、「活用」の力を高めていきたい。</p>